

金剛寶戒寺便



令和八年八月一日発行 第一四九号

檀信徒の皆様、こんにちは。暑い夏がやってまいりました。今年の甲子園予選大分県大会は、大分商業高校の優勝で幕を閉じました。大商野球部には昨年まで三男が在籍していたため、知っている選手たちが躍動する姿を、他人事とは思えない気持ちで応援しました。長男から足掛け十年、本気で甲子園を目指しながらも夢破れてきましたが、わが子の代ではないものの甲子園出場が決まり、長く続いたわが家の夏がようやく終わったような気がしています。そこには嬉しさと、ほんの少しの悔しさが入り混じった未熟な自分がいました。

さて、七月八日の法話の会では、九十一歳の現役プログラマー・若宮正子さんを取り上げました。彼女は定年後、母親の介護で外出が減ったことをきっかけに、五十八歳で初めてパソコンに触れました。初期設定に三か月もかかりながらも独学で操作を学び、Excelの機能を活かした「エクセルアート」を考案。さらに八十歳を超えてプログラミングを学び、八十一歳で雛人形を並べるスマホアプリ「hinadan」を開発しました。この挑戦が世界中で話題となり、Apple社のティム・クック CEO から「世界最高齢のアプリ

開発者」として世界大会に特別招待されるなど、大きな注目を集めました。

その後も国連での講演やデジタル庁の構成員を務めるなど、好奇心を胸に挑戦を続けておられます。若宮さんの歩みは、「何歳からでも新しい学びをスタートできること」、そして「日常の課題をアイデアと行動力で克服する姿勢」の大切さを教えてくれます。それは自分が幸せになること（自利）が他者の幸せへ繋がる（利他）という、現代版の「自利利他（じりりた）」の**大乘仏教精神**そのものだと感じました。

また、「高齢者だから」という枠に自分を当てはめず、「失敗は成功の糧になる」という精神で軽やかに未来へ踏み出す生き方は、高齢者だけでなく全ての世代に参考になるのではないのでしょうか。

私自身も何かを始める時は完璧を目指さず、見切り発車でスタートすることを恐れないようにしています。完璧に構成案が出来上がってから始めても結局は途中で訂正や変更が入ることが普通です。むしろ見切り発車で始めた方が、柔軟に変更が出来、周りから様々な意見が頂ける気がしています。

八月後半から九月は行事が目白押しとなります。少しでも興味があれば、若宮さんの精神に則ってご参加ください。新しい出会い、新しい気付きが待っているかもしれません。皆さんのご参加をお待ちしております。

○供養盆踊り（金剛宝戒寺・境内）

八月二十二日（土曜日）十九時から

○法話の会（金剛宝戒寺・檀信徒会館）

九月八日（火曜日）十四時から

○巡回布教（金剛宝戒寺・本堂）

九月九日（水曜日）十三時から

香川県小豆島 多聞寺住職 藤本佳鳳先生

○写経の会（檀信徒会館） 会費千円

九月十八日（金曜日）十四時から

納骨堂を建立して十年が過ぎました。お檀家様だけでなく多くの方にお申し込みを頂き、大変有難いご縁が生まれました。その中でも一定数の方から、お墓は屋内ではなく屋外が良いとのご意見もいただきました。また納骨堂の家族用が残り少なくなった事もあり、屋外に永代供養墓を作ることになりました。

利用者のご負担は少なく、納骨堂の良さと屋外のお墓の重厚さを兼ね備えた合同供養墓になっていると思います。

場所は金剛宝戒寺の境内墓地です。現時点でもほとんど出来上がっておりますが、完成はお盆明けになると思います。現代は少子高齢化、晩婚化など様々な問題を私たちは抱えています。それらにも対応できる様に考えました。ご関心のある方は、どうぞお気軽にお声掛けください。新たなご縁となりますことを、心より楽しみにしております。合掌
〈一句〉お施餓鬼や 読経を吞む 蟬時雨